

ヘルスケア・パーク構想 Health Care Park Conception

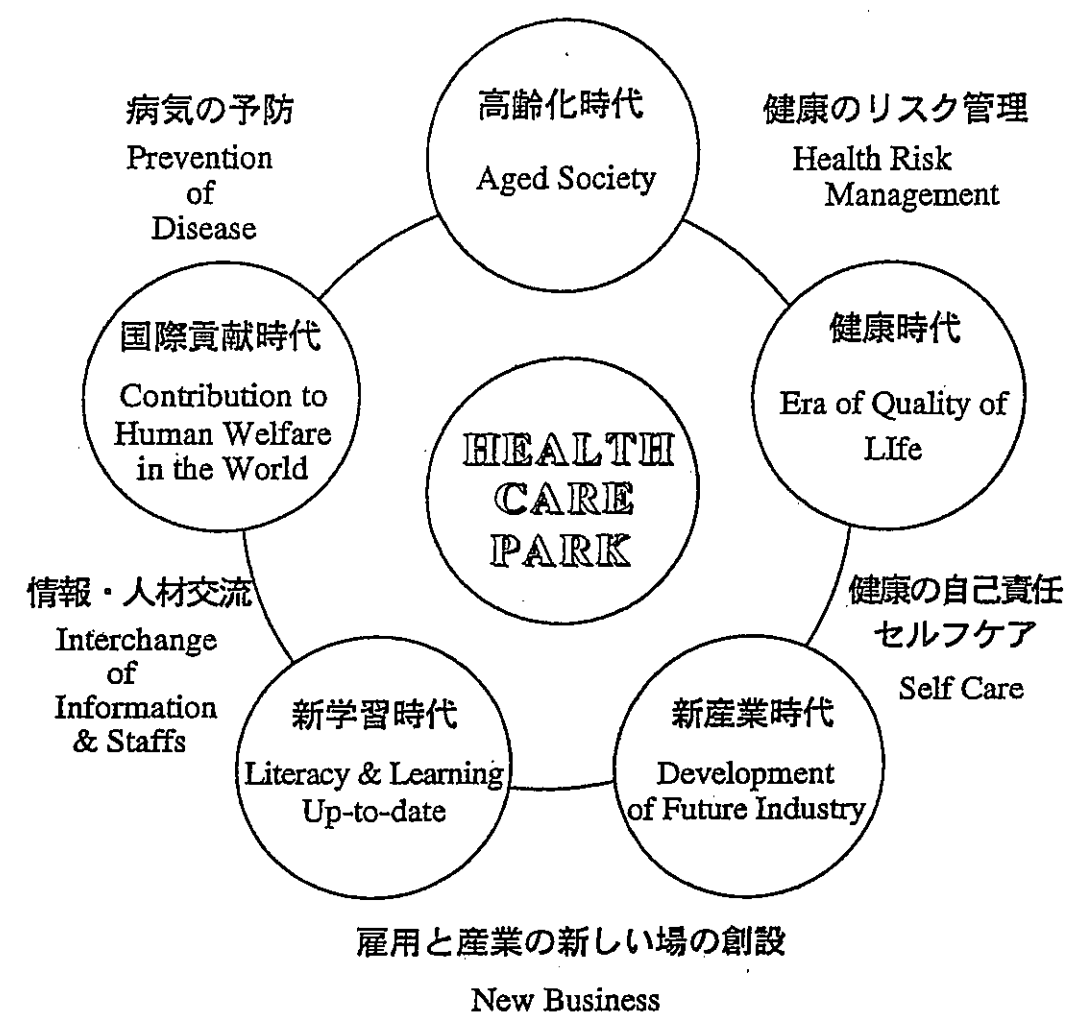


一人一人の未来健康を支える社会基盤

Infrastructure of Human Society Supporting

Healthy Quality of Citizen Life Toward Future

ヘルスケア・パークへの期待と必要性 Five Keywords Indicating the Necessity and Expectation For HEALTH CARE PARK



わたしたちの健康と未来医療の姿を考えよう

命あつてのもの種とありますが、健康あつての高齢化です。世界中で、増加しつつある医療費が問題となっていますが、医療費を節減するためには、病気になっても医者に行かないか、病気にならないようにするかの二つのやり方があるでしょう。どう考えても後者の方が正解だと思います。

年をとっても元気であるためには、日頃から健康と医療について正しい知識を持ち、自分の責任で常に自分の心と体に注意を払うセルフケアが大事になります。病気になってから診てくれる病院のほか、病気にならないために役立つ健康院が必要でしょう。そこでは健康や予防や医療について楽しく学習することができ、心配な点について相談にのってくれ、セルフケアや介護などに必要な機器や用具も展示されていて試すことができ、最新の情報を国内外と交換できる。そのような「ヘルスケア・パーク」が人々の健康を守るための社会基盤として全国に設置されてネットワーク化される、そして世界中とメディアで結ばれて世界の人々のお役に立つ。わたしたちはそのような未来医療、未来社会の姿を頭に描き、実現をめざしています。

高齢化社会において人々がいい時を過ごす、創刻のために。

ヘルスケア・パーク構想委員会 (代表 桜井靖久)
Health Care Park Research & Planning Committee
(Representative : Yasuhisa SAKURAI, M.D.)

〈病院から健康院へ〉

医療は病苦に悩む人を癒すことがこれまでの役目でした。医療は「癒しの技」として人々に貢献してきました。しかし、技術が進み、長寿社会になると、病気になってから治すより、病気を予防し、生きている限り健康を保つことが、もっとも大事になります。そして、技術の進歩は成人病・生活習慣病をも含めた多くの病気の予防そして健康の実現をだんだんに可能にしてくれるでしょう。

いま、医療は癒しの技から予防・健康・QOLを中心にした業務へと、大きく転換しなければなりません。これからは病院のほかに「健康院」といった施設が必要になるでしょう。

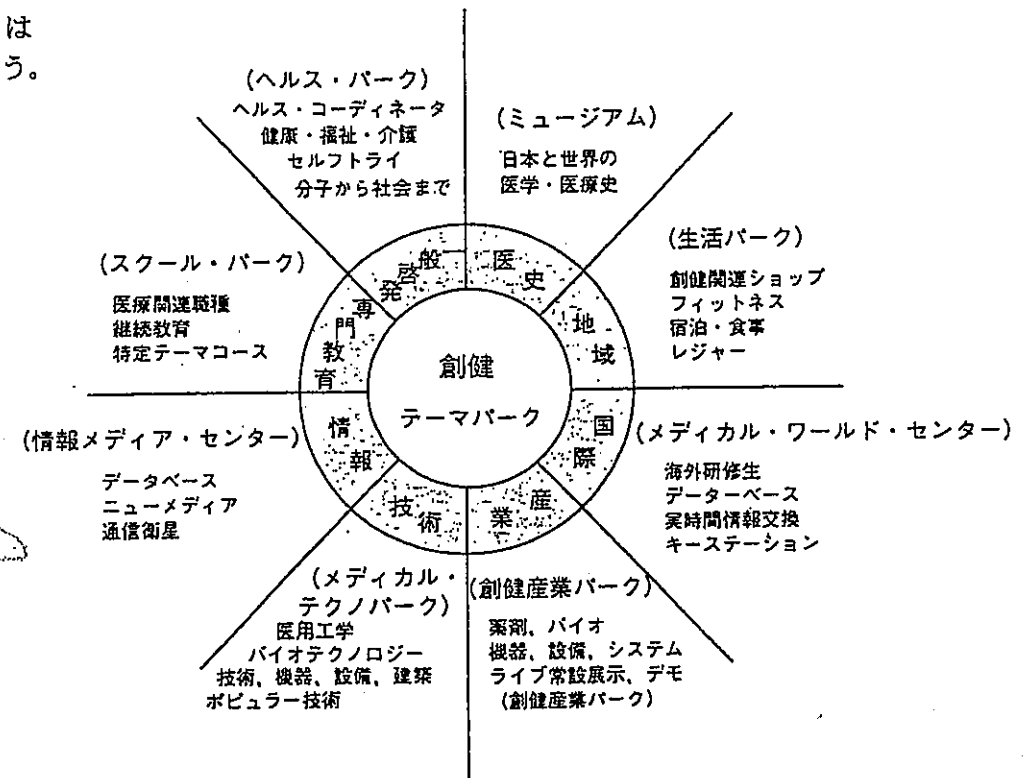
〈医療技術の進歩〉

この数十年の間に、医療技術は驚くほど進歩しました。その進歩の目指すところは、病気の検査や治療に伴う苦痛や害をできるだけ少なくして、効果を最大限に発揮させようという目標です。ハイテク医療はヒューマン医療を目標としているのです。

これからも、バイオテクノロジー、遺伝子工学、細胞工学、クローン技術、バイオ型人工臓器、センサー、DDS（ドラッグ・デリバリー・システム）、マイクロマシン、ロボット、情報技術、画像技術、人工現実感、遠隔医療、福祉工学、等々が発展して、人々のQOL（生活の質）を高めてくれるでしょう。

〈ヘルスケア・パークの内容〉

ヘルスケア・パークは正しい健康知識を楽しく学習することを主眼にした開放型の施設です。そのほかに、地域やそれぞれの目的に沿っているいろいろの内容を組み合わせてつくることができます。このような新しい健康基盤施設は人々の健康に役立つだけではなく、新しい産業を形成し、また国際貢献に資するところが大きいのです。



一人の個体の中で、生命現象は絶え間なく流れています。健康を保つには連続した継続性が必要となります。それだからこそ予防・健康においては自己責任に基づく「セルフケア」が大事になるのです。

- ひとの体と心、健康と病気、予防と医療について正しい知識を学習すること
- 病気にかかる兆候、リスクをよく知り、自分の体の状態とよく照合すること
- リスクを避けるように専門家とよく相談して自分の毎日の生活を調整すること

セルフケアを継続するためには、それを支える場、一緒に続けられる仲間、きちんと相談に乗ってくれる専門家などがが必要です。

そのためには社会の中に新しい基盤構築・インフラストラクチャーをつくり上げて行かなければなりません。それが健康を主題にした一種のテーマ・パーク、ヘルスケア・パークなのです。

〈予防を軸とした医療のニューパラダイム〉

人の健康の全ての段階で、予防主導、リスク管理志向を主体にした取り組みをしようという新しい体系の考え方。

零次予防

からだのホメオスタシスを保って健康を維持する（均康創健）ための養生（個体差医学、時間生物学、健康科学、セルフケア）

一次予防

発病・発症の予防（ワクチン、免疫、遺伝子、DDS）

二次予防

早期診断、治療（ハイテク医療技術、情報科学）

三次予防

合併症、重篤化の予防（ハイテク医療技術、リスク管理）

四次予防

機能低下の予防・リハビリ・normalizationの達成（人機共生、代替治療、福祉工学）

無限予防

苦痛・恐怖・孤独の予防

